
アイ・スペック

熱血バレー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイ・スペック

【Zコード】

Z4657V

【作者名】

熱血バレー

【あらすじ】

世はアイ・スペックを持った人々が争い、従えていった時代。主人公の清田慶次もその所有者であった。果たして慶次はこの時代を乗り切り、あの忌まわしき組織を解体できるのか？

みんな楽しみ? 技能試験(前書き)

一作目の小説です。あまり時間もない年なので投稿が遅くなると困りますが楽しんで読んでください。

みんな楽しみ？技能試験

「眼」に秘められた力。

それぞれの人の個性があるように、それぞれ異なった眼を持つている。したがって、眼に宿りし力も、それぞれ異なる。その力こそ、「アイ・スペック」。しかし、アイ・スペックを持つものは、ごく一部の人間に過ぎない。また、両眼に力を宿した者が存在するのであれば、それは奇跡としか言いようがない。

ここには、アイスペック日本養育学校。通称『E・S・J』【この】の高等部、1-Dに所属している少年が、この物語の主人公である。その少年の名は、

『きよたけいじ清田慶次』

慶次というのだから、「前田慶次」のような人を想像するかも知れない。（実際、違うのは「清」だけ）しかし、この慶次は絵に描いたような草食系男子である。さらに、運動音痴で頭もよくない。取り柄は優しさだけという少年である。

慶次とは対照的に、まさに肉食系女子のような少女もいる。幼馴染の『不知火さくら』である。こちらも、名前に縛られてはいけない。『さくら』と聞けばおしとやかなイメージがあるが、1-Dの大半の生徒が「あいつは、おしとやかの、お、の字もない。」とう。

そして、今日はE・S・J高等部一年の技能試験の日である。ただ、試験といつてもまだ入学3日目であるため個人の実力を見るためである。

この試験の項目は次の通りである。

- ? 所有者の技術
- ? アイ・スペックの能力（攻撃、防御、補助の3つ。これらは、A

t、D、Asと表される。)

これらの項目を「SS～D」で評価する。（平均はBで、SSは歴代でまだ一人しかいない。Dがつくと退学）これらを評価するためには、学年担当の先生に3分間攻撃と防御を行つ。その六分間の中での好きなとき補助を行うという形だ。

さあ、二人の評価はどうなるのか？

みんな楽しみ? 技能試験(後書き)

今日は説明で終わってしまいました(泣)
次回はやつと台詞がかかるかな? そんな感じです。

さくらの技能試験（前書き）

不知火さくらの技能試験が始まる。さくらが、圧倒的力を見せるも、アルベルト先生には、攻撃が通らない。

セベリの技能試験

-試験日翌日-

生徒「キンシヤーしてきた。」

生徒「何をやるのか、わくわくするー。」

みんなこんな風にこの試験を甘く見てこようであつた。今年の学年担当の先生を知りやう。」

その日は、職員室では、

教頭「先生、今年の一年の試験頼みますね。」

学年担当「任せてくれ。僕が教師やる意味の大半はこれですからね」

教頭「（出たよー。あの先生の悪い癖。）」

そんなわけで、技能試験スタートです。

学年担当「えー今年の学年担当のアルベルトです。気楽に楽しくやつていきましょう。早速1ーAの人からお願ひします。」

そういうて、手に持つた注射の針が光ると同時に、生徒全員がアルベルト先生に恐怖を抱くのであった。

そうして、1 - Dの順番が回ってきた。といつても、一クラス15人程度なので6時間しか待っていない。いやいや6時間何もせずに待っているのは、苦痛である。しかも、時々聞こえる叫び声も精神的にきつい。そんな調子だったので、精神的にも一部を除いてくたくたであった。（一部とは不知火のこと）

アルベルト「落ちこぼれの1 - Dの皆さんの番です。（僕の獲物はターゲットいるのか。ヒヒヒヒッ）」

言つていなかつたが、この学校は、Aから順に入学試験の結果がいい人が入る。つまり、Dはギリ合格のおばかクラスなのだ。（中には、本人の希望でクラスを下げる人もいる。）

そして一番の不知火の試験が始まる。

アルベルト「あなたは、学年トップなんですね。何で下げたかは知りませんけどその力、僕に見せてくださいよ。」

まずは、三分間のA七の試験。

さくら「アルベルト先生、Dをがんばってくださいね。じゃなきや、焼け死にますよ（笑）。」

アルベルト「あー怖い怖い。」

さくら「相当の余裕ですね。じゃあ、いきますよ。死の火炎の世界デスマーチワールド」

そういうたとたん、目が光り辺り一帯が業火に包まれる。

アルベルト「あなた、“炎の眼”ですか。この年でこれほどの技が使えるとなると、あなたの力も図り知れませんね。でも、この技は攻撃用ですか？」

さくら「いえいえ、今からが本当の攻撃です。」

炎は、見る見るうちに小さくなっていく。そして、アルベルト先生を包んでいく。

さくら「ヘルフレイムロック業火の縛り」

アルベルト「さすが、学年トップ。でも甘い。それは、残像です。」

さくら「なら、私の“スペックウェポン”を見ますか？」

次回、残り一分となりさくらが本気を見せる！！

セーリング技能試験（後書き）

せひお話をなつましたが、まだ本編には書かれてないんですね（泣）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4657v/>

アイ・スペック

2011年10月9日03時36分発行